



## 第6回高分子分析討論会報告【2001】

2001年11月5日(月)・6日(火)の2日間、工学院大学新宿校舎において標記討論会が開催された。これまで名古屋で開催されていたが、東京での初めての開催であり、発表や参加者登録が心配されたが、前回は上回る発表78件(ポスターのみ)、参加者281名、懇親会参加者110名と盛況であった。

ポスター発表は1日目・2日目の午前と午後にそれぞれ20件ずつが報告され、ポスター展示の前に各人の持ち時間3分のOHPによるプレビュー発表があり、内容の理解を助けた。このプレビュー発表に続く、ポスター展示(1.5時間)の形式も定着し、ポスター前での議論を活発にしているようである。ポスター会場は広く、多くの聴衆が集まっても十分に議論が可能で、活発な討論がなされた。

初日の午後には特別講演があり、名古屋大学大学院工学研究科の柘植教授により「熱分解ガスクロマトグラフィーによる高分子分析今昔」と題して高分子の熱分解ガスクロマトグラフィーにどのように携わってこられたか、その装置的な進歩が時代とともにどのようにあったか、また分析的熱分解法としての高分子の分子特性解析測定法の中での位置付けも含めて講演された。途中、NASAの関連で「月の石」の安定同位体の分布測定などをされたお話を交えられ、40余年の高分子分析でのご研究を伺う好機となった。

2日目には、「高分子分析におけるハイフォネーテッドテクニック」と題するパネル討論が開かれた。まず、はじめにパネラーから各10分程度OHPを用いて、それぞれの分野のお話があり、引き続き会場での討論が30分程度行われた。パネラーは、右手浩一助教授(阪大,SEC-NMRを中心に)、大谷肇助教授(名大,LC-, GC-MSを中心に)、宝崎達也氏(出光石油化学,SEC-MALLSや多重検出)、吉田博久助教授(都立大:熱分析-IRなど同時測定)の4氏であり、高分子が分子量のみならず化学組成・タクティシティーなど複数の分子特性に多分散性を有していること、また分子が大きいと容易に平衡状態に到達しないことなどの事情から、今後もますますハイフォネーテッドテクニックは重要となることが予想された。2日間にわたる計4回のポスター発表は、NMR・IR・ラマン・熱分解GC・SECなどを用いた分析に加え、AFMやTEMを用いた解析なども見られ、実用的な分析からシミュレーションまで多岐にわたっていた。

閉会に先立ち、優秀発表賞の発表と授与が行われた。受賞者は以下の8件である(発表番号順)。

1. パルスNMR法、及びSAXS法によるパーフルオロスルホン酸ポリマー中クラスター構造解析  
(旭硝子) 関 庚薫氏
2. 表面増強赤外吸収現象を利用した顕微ATR法による高分子材料表面の高感度分析  
(豊田中研) 須藤栄一氏
3. マルチモードSPMを用いた多層薄膜のナノ表面解析  
(コニカ) 松田敦子氏
4. ポリエチレンオキサイド-ポリプロピレンオキサイドブロック共重合体ジメタクリレートの構造解析  
(日立化成) 海野晶浩氏
5. マトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法による微生物中のタンパク質および脂質成分の

迅速分析

(名大)石田康行氏

6. サイズ排除クロマトグラフィー法によるパーフルオロスルホン酸ポリマー溶液のキャラクタリゼーション

(旭硝子)川原健吾氏

7. 化粧品に配合されるカチオン性高分子の定量・分子量測定法

(ライオン)杉山淳一氏

8. 半導体リソグラフィー用樹脂の末端基構造解析

(三菱レイヨン)百瀬 陽氏

来年の開催場所は未定であるが、実用的な高分子分析を討論する貴重な場として定着してきており、第7回の討論会に参加・発表されるようお願いします。また、講演要旨集に残部があり、実費(3,000円)にてお分けしておりますので、大谷肇幹事委員長までご一報願います。

[旭硝子株式会社 米森重明]



All Rights Reserved, Copyright (c) 2003, THE JAPAN SOCIETY FOR ANALYTICAL CHEMISTRY